

校長室だより



H24(2012)年 NO.11 岸和田市立浜小学校 渡瀬 克美

6年生40名が 卒業していきました。!

3月19日(月)浜小学校110回目の卒業式が行われました。前日までの雨もやみ、よい天気のもとでの卒業式になりました。教育委員会 教育総務部 教育総務課 参事 植田和幸先生を初めたくさんの方々にご出席を賜り、子どもたちの門出を祝福していただきました。

私はこの子たちとの付き合いは長く、中には幼稚園の年少から指導した子どももいます。6年になってからは、校長室で5~6人の子どもの算数を教えたり、社会科を指導したりしました。教頭先生は3学期の途中から1組の担任をしました。とにかく、思い出の多い子どもたちでした。今回は卒業式で私が話をした式辞の一部を紹介します。



略・・・6年生のみなさん、「卒業おめでとうございます」私がみなさんと初めて出会ったのは6年前の入学式の日でした。中には、浜幼稚園の年少からの付き合いの人もありますね。月日の流れるのは本当に早いものです。その中でも、昨年3月11日の大地震と大津波、秋の台風、そして、放射能物質問題は忘れることができません。人類の発展と安全、「命」とりわけ「子どもを学校で預かるとはどういうことか」について深く問い直しをさせられました。津波は浜小学校にとっては他人事ではありません。

私の友人である仙台市の中学校の先生は震災後、子どもたちが学校から帰る時

「今日も一日元気でありがとう」と、バス通学になってしまった子どもたちに、毎日手を振って見送っているそうです。「生きてくれている」という、当たり前のことにも、感謝するようになったと話をしてくれました。私たちが、犠牲になられた方々の計り知れない無念と悲しみを教訓とできるなら「支え合う」「協力する」

「助け合う」「感謝する」ことです。そして、「大切な人と一緒に生きていける幸せ」や「一人ぼっちではない喜び」「共に苦しみ楽しみを分かち合うことの大切さ」などをあの甚大な被害を代償として学んだのです。

「競争と効率化」が優先された社会に「ちょっと待って!」と教えてくれているのです。阿南 慈子(あなみいつこ)さんという方の詩をご紹介します。彼女は31歳で突然難病にかかり首から下が動かなくなり全身が麻痺し、33歳で失明。声も失いながら明るく生きた。そんな彼女の詩です。

「一日一日」を大切に
一人ひとりを大切に ていねいに
「一言一言」を ていねいに
愛をこめて誠実に 花のように生きてゆきたい



彼女は次のようにも述べています。

「人には他者の痛みや悲しみをわが身に置き換えて共感する『優しい想像力』が与えられている。

「支え合う」「協力する」「助け合う」「感謝する」という言葉は、学校教育で最も大切にしたい言葉の一つです。このことをしっかり学ばせる浜小学校にしないといけないと強く感じています。

ところで、みなさんに成長を感じたのは10月の岸和田市の連合音楽会でした。去年の4月から「6年生にチャンス！」「連音は6年生に！」と学校で決めていました。そして、NHKの大河ドラマ『江』のメインテーマの合奏を大成功させてくれました。先生たちの本気に見事に応えてくれ、まさに「学校の看板」としての姿を見せてくれたのです。そして、次の行事「持久走記録会」でも誰一人として途中で歩くことなく、イーブンペースで最後まで走り切りました。これも、大きな自信につながったことでしょう。よく頑張りました。そこで、私からみなさんに贈りたい言葉があります。それは、「継続は力なり」という言葉です。意味は2つあります。

1つ目は「コツコツと続けることで、その積み重ねが力となって成功する」ということ。

2つ目は「何事も継承するためには大変な努力が必要である」ということです。そのためには、まず、第一に取り組みたいことを決めることです。決めたら

『やってみようと思うこと』『やろうと思ったら 始めること』

『始めたらやめずに 続けること』この『強い意志が』必要です。

「継続しようとする強い意志を持つ」ということは、簡単なことではないでしょう。しかし、自分なりの『夢』をしっかり持っている「継続する」強い意志が必ず持てるはず。例えば2011年 女子サッカーワールドカップ優勝のなでしこジャパン。男子サッカーの陰に隠れ有名でもなく、予算が厳しく、ほとんどの選手がアルバイトをしながらサッカーを続けていたそうです。そんな「なでしこジャパン」が優勝し、震災に打ちひしがれた日本に勇気と感動と自信を与えてくれたのです。彼女たちの優勝は、まさに「継続は力なり」なのです。先ほどみなさん一人ひとりが自分の夢を語ってくれました。ステキな夢だと思いました。その夢をかなえるために、途中であきらめず、投げ出さず「継続は力なり」の言葉を胸にし、将来の夢に向かって歩み始めてください。卒業生のみなさん、みなさんの活躍を期待して私の式辞といたします。

子どもたちにとって現代社会は自分の夢がなかなか実現しにくい厳しい世の中です。しかし大人にとって子どもは『地域の宝』『希望の星』なのです。

地域が発展し活気ある町にするためには子どもたちの存在なしには語れません。そんな子どもたちに

『大きな夢』を持ってほしいのです。まさに

『少年よ大志を抱け』です。あのクラーク博士は

この言葉の次に、

『しかし、金を求める大志であってはならない。

利己心を求める大志であってはならない。名声というつかの間
のものを求める大志であってはならない。人間としてあるべき
すべてのものを求める大志を抱きたまえ。』

と述べています。この言葉は、教育そのものです。

子どもたちが、将来浜の人たちと「支え合い」・「協力し」・「助け合い」そして「感謝する」そんな心を持った大人になってほしいと願うばかりです。



『卒業おめでとう！』